

賀國伊賀郡身野二萬頃置守護人准河内國大鳥郡高脚海

〔續日本紀十一〕天平三年六月庚寅紀伊國阿比郡海水變如血色經五日乃復

〔日本後紀十四〕大同元年七月戊戌改紀伊國安誦郡爲在田郡以詞涉天皇諱也

〔續日本後紀十八〕承和十五年五月癸酉紀伊國在田郡爲上郡以戶口增益課丁多數也

日高郡
〔紀伊續風土記六十三〕總論

日高郡は在田郡の南にありて南は牟婁郡と界し東は大和國吉野郡十津川と境を接し西は海に濱す其廣袤東西十八里南北十里日高の名義を考ふるに日の高く天の眞秀に坐して照輝く義にして山あれども高からずよく日をうくる地の美稱なり取りて直に郡名とせるならん

〔續日本紀二十五〕天平寶字八年七月丁未先是從二位文室真人淨三等奏曰伏奉去年十二月十日

紀寺奴益人等訴云紀袁祁臣之女粳賣嫁木據○木原作本國水高評人内原直牟羅生兒身賣狛賣二

人

牟婁郡
〔紀伊續風土記六十九〕總論

牟婁は日高郡の東南に續きて其地の延袤伊都那賀名草海部在田日高の六郡を合せても其大きさに較ぶべきにあらず長短相補ひて其廣さをいはゞ東西三十五里南北十二三里許なるべし六郡の地は大抵大和國の西にあり當郡は大和國の南より東に繞りて吉野郡を包みて北の方伊勢國と境を接す東南は大瀛に向ひて其際涯を知る者なし萬國圖を閲るに本國より東南隅八丈島を除きて其外に國あらず實に洋濱に濱すといふべし此地上古は熊野といふ今に至りても是を通稱とす牟婁の名は初めて齊明紀及萬葉集に出で往古は僅に郡の西邊今の田邊近邊の稱にして後の牟婁郷の地即其地なり事は田邊莊論に詳なり其名義は館の義にして海津官舎あるより起れる稱ならむか播磨室津周防室積なども同じ又尾張師崎をむる又は温暖の義にし